第７回南区自治協議会　会議概要

日　　時　　令和元年１１月２７日（水）　午後２時～午後３時５５分

会　　場　　新潟市南区役所味方出張所３階　会議室

次　　第　　１　開会
２　議事
（１）令和２年度特色ある区づくり予算（区役所企画事業）について（地域総務課）
３　部会報告
４　報告
（１）南区総合防災訓練の報告について（地域総務課）
（２）その他
５　次回全体会の日程について
１２月１８日（水）　　南区役所　午後２時から
６　閉会

事前配布資料
資料１　令和２年度特色ある区づくり予算一覧（区役所企画事業）

当日配布資料
資料 2-1 南区自治協議会第１部会　会議概要
資料 2-2 南区自治協議会第２部会　会議概要
資料 2-3 南区自治協議会第３部会　会議概要
資料３　令和元年度南区総合防災訓練について（実施報告）

出席委員：　斎藤栄樹委員，栗田修二委員，須戸官一委員，久保安夫委員，
小林　誠委員，川村朋生委員，有田正己委員，本永裕子委員，
鞠子幸一委員，冨井　敦委員，笹川和代委員，今井　剛委員，
寺澤和江委員，渡邊喜夫委員，小嶋ノリ委員，長澤文彦委員，
町屋参吉委員，山宮勇雄委員，鈴木照子委員，松尾正行委員，
田中容子委員，阿部隆一委員，小田信雄委員　　以上２３名

欠席委員：　渡邊直樹委員，梅津繁明委員，森澤達矢委員，中野裕子委員，
大那　孝委員，和泉美春委員，早見真由美委員

事務局：（南区）渡辺区長，高野副区長，内藤区民生活課長，田中健康福祉課長，
五十嵐産業振興課長，赤塚建設課長，島倉味方出張所長，
登石月潟出張所長，長谷部南区教育支援センター所長，
和田白根地区公民館長，佐藤地域総務課長補佐，
藤村地域総務課長補佐，地域総務課職員，産業振興課職員

報　　道　１名　（新潟日報社）
傍 聴 者　２名

（午後２時００分）

１　開　会

○事務局（佐藤地域総務課長補佐）　　（配付資料の確認）

○議長（小田会長）　ご苦労さま。随分寒くなった。昨日，新潟市では，除雪車の出動式が行われたやに聞いている。南区でも，一昨日，ここを会場にして，除雪管理システムの説明会が開かれていた。そんな時期になった。毎日，日増しに寒くなってくるこの頃であるが，曲げてお集まりいただきありがとうございます。

今日は，事務局の計らいで，いつもとは違った旧味方村役場での開催である。１７年前，１階の奥のほうの広間で，新潟市の新しい区割りについて，旧味方村の皆さん方に，私，説明に伺った。いろいろな観点から新しい新潟市がどうなるのか，あるいは予想されている南区がどうなるのか，大勢の方から質問を頂戴したり，意見を頂戴した。つい昨日のように覚えている。

この快適な旧役場も，味方の皆さん方が永年基金を備蓄し，そして将来は立派な役場を私たちの村の中心部にふさわしい施設を作ろうということで，永年苦労を積み重ねてきた。ときすでに合併の話が，着々と進んでいたが，合併を目前にこのすばらしい庁舎が完成した。ほんのわずかな時間をこの味方地域の中心として，自治の要としてここが使用されたわけだが，残念ながら区役所が旧白根市役所に開設された関係上，ここが出張所になってしまった。旧西蒲原郡は~~市~~町村の数が多かった関係上，いずれの町や村も立派な庁舎を所有していらっしゃった。西川町しかり，岩室村しかり，中之口村しかり，隣の潟東村もまた立派な庁舎をお持ちだった。それらが行政のシステムを合理化するということで，区役所に一本化されて現在に至っているわけだが，これだけ貴重な資産をどのように新しい新潟市が利用し，地域の皆さん方の文化と生活と産業の振興に利用しているかというと，甚だ疑問があるところである。私たち，常に今，区役所でさまざまなものの見方をしているが，本日のように，目先を変えて，かつての地域の皆さん方の自治と文化とそして郷土への意気込みはどのようなものであったか，本日のように会場を変えることによって，新たに感じ取ることが私たちの責務ではないかと思っている。

後ろのパネルのところには，中ノ口川の河川図，古絵図が掲げられている。この味方地域も長い独自の歴史と文化とそして独特のアイデンティティを持っている。これらが合併後もおのおのの区の中で，個性豊かに伸び伸びと発揮される区政こそが，新しい新潟市の未来を物語るものであり，ここにいる我々はそれを十分引き出す，これが大きな役割ではないかと思っている。新しい会場で，新しい息吹を感じながら，ただいまから第７回南区自治協議会を開催する。よろしくお願いする。

欠席者の報告

傍聴者の報告（所定の手続きを経て，傍聴していることを報告）

２　議事

（１）令和２年度特色ある区づくり予算（区役所企画事業）について（地域総務課）

○議長（小田会長）　次第第２（１）令和２年度特色ある区づくり予算（区役所企画事業）について，地域総務課から説明をお願いする前に，各部会でこのことについて，慎重に議論をされているので，まず各部会長よりその内容を報告してもらい，その後，地域総務課から説明を頂く。はじめに，第１部会の鞠子委員から報告を頂く。報告は区づくり予算の議論についてのみ頂きたい。

○鞠子委員　第１部会は，１１月１３日に部会を開き，ここに示してあるように，令和２年度の区役所企画事業についての説明を頂き，私どもからこのような意見を出させていただいた。

南区まちづくり支援事業については，今まで補助金があるから活動を行い，補助金がなくなったら止める状況が続いたが，補助金がなくなった後も活動を継続できるような仕組みづくりが必要ではないかと。要は継続の強調ということである。

旧８号線，この前，聞いたところによると，交通量はバイパスが７割，旧道が３割しか今，走らないという状況を聞いたのだが，この辺の活用方法を明確にする必要があるのではないかと。

今後は，南区の中心部に来る人は減少する可能性が大きいので，活性化はまず人が集まることが重要で，どういう人を集めたいかという議論も重要になるのではないかという意見が出た。

続いて，地域と取り組む防災事業で，今年度で全体で行う防災訓練は終了となるが，各コミュニティ協議会，自治会単位など細かな単位で防災訓練を継続していくことが必要だと。数年後には，全体での防災訓練の実施を検討する必要があるのではないか。事業所にも，防災士が多く増

えているので，地域の防災士との情報共有が必要ではないかという意見を出させていただいた。
○議長（小田会長）　続いて，第２部会の部会長，笹川委員から説明を頂く。
○笹川委員　第２部会では，４点について話し合いが行われた。白根高校とまちづくり連携事業についてだが，活動内容の報告はあるのかという委員の皆様からの質問が出た。白高を語る会で発表しているが，あまり周知されていないのでもっとＰＲしたほうがいいのではないかという意見が出た。ボランティア活動そのものだけで終わるのではなく，もう一歩進めて，地域との関わりに積極的に参加してほしいという意見が出た。さまざまな事業で，高校生の姿を目にするようになったのでよい取り組みだと思うという意見だった。
　地域で支える包括ケア推進事業についてだが，高齢者の「高」に「幸」をあてるのであれば，「支える」ではなく「つくる」としたほうがいいのではないかという意見が出た。内容的には５年目ということで充実してきているとは思うが，まだまだ浸透してはいないということなので引き続き啓発を続けてほしいという意見だった。支え合いのしくみづくりについてだが，５年目になるが，何も進んでおらず推進員の活動が見えてこない，他地区の成功例のようなものがあれば具体的に示してほしいという意見だった。周知が行き届いていないので，推進員が自治会長の集まりに入っていくなど浸透を図ってほしいという意見が出た。
　未来創造教室では，活動は知っていても予算が特色ある区づくり事業の未来創造教室から出ていることは知られていない。南区の子どもたちを区で育てているという面でも学校評価委員等にも周知できるとよいのではないかという意見だった。
　地域で子育てネットワークについて，特に意見はなく，このまま継続していただきたいということだった。
○議長（小田会長）　続いて，第３部会長の冨井委員から報告いただく。
○冨井委員　第３部会では，新規事業の角兵衛獅子の魅力発信事業ということで，検討させていただいた。親が学業に一生懸命で，芸能関係に力を入れていただけているか疑問であるという意見が出た。また，短い紹介ＤＶＤもいいが，３Ｄとかもう少し臨場感があるものを作ってはどうかということ。非常に難しいだろうが，角兵衛獅子の魅力アップのために，ぜひ頑張っていただきたいという意見だった。
　次の南区おもてなし力向上プロジェクトに関しては，ホームページの改修について，すばらしいものを作っていただきたい。また，一番いいのは，学校発案という子どもたちによるおもてなし商品づくりに期待をしたい。ぜひ頑張っていただきたいということだった。
　次の文化資源魅力アップ事業に対しては，大凧と歴史の館の展示については，上を向いて歩いているだけなので，凧の展示方法，場所の工夫をしたほうがいいのではないかという意見が出た。大凧と歴史の館で観光バスが来たときに，凧絵を描いてもらうとかの実演も含め，あわせて臨時のカフェなどを開催したらどうかという意見も出た。スポーツ大会などでカルチャーセンターを訪れた人から，帰りに大凧と歴史の館に寄ってもらうような取り組みを行ったらどうかという意見も出た。
　最後に，南区ル　レクチエブランディング事業に対しては，ル　レクチエ自体の認知度が上がり，関東圏の販売拡大は喜ばしいが，関西方面では知名度不足を感じているということだった。最後に採れる梨なので，台風の影響を受けやすく，面積拡大が難しいのではないか。ラ・フランスの知名度はなかなか超えられないではないかという意見も出た。また，生産量と販売量がマッチしているのか。海外と言われても，国内でも足りない状況ではないのかという意見だった。
○議長（小田会長）　部会によっては，４時過ぎまで議論を重ねた部会もあるやに報告を受けている。大変慎重に令和２年度特色ある区づくり予算の区役所企画事業について，皆さん方が意見を出し合ってくださったものだと思っている。これを受けて，地域総務課から，これについての説明をお願いする。具体的な内容について，さらに突っ込んでお話を伺えればと思う。
○高野副区長　令和２年度特色ある区づくり予算区役所企画事業についてご説明する。資料１をご覧いただきたい。こちらは令和２年度，南区特色ある区づくり予算の区役所企画事業。区役所が企画，立案する事業。いわゆる意見反映型の一覧となっている。区役所企画事業については，１１月に開催された各部会において，それぞれの部会に関する事業の概要や予算組みなどを担当課から詳しく説明し，そこでの議論を経た後に，本日の自治協議会で予算額を入れたものをお示

しすることとしていた。各部会については，１１月１２日に第３部会，１３日に第１部会，１５日に第２部会を行った。おつけしている２枚目以降のＡ３横の資料だが，これに基づいて，委員の皆様からご議論いただいた。その結果，内容等についてご了解いただいたところである。令和２年度の区役所企画事業は，この資料の１枚目にある新規事業１事業，継続９事業の計１０事業，金額で２，２００万円を予算案とすることをご報告する。なお，７月の自治協議会でもご説明したが，南区の特色ある区づくり予算の総額は，２，８００万円となる見込みである。自治協議会提案事業の予算額については，令和元年度を基本とした配分とすることから，今年度と同額の６００万円となり，その内訳については１２月の自治協議会本会議までに各部会において調整をさせていただく。

○議長（小田会長）　すでに各部会で受け持ちのエリアについては，さまざまな観点から議論をお進めになっているはずだが，なおそのときの発言ぶりでもけっこうである。他の部会の関連のところでのご発言を特に承っておきたいと思うので，ご自由に発言を頂ければと思う。

鈴木委員，ご覧になって他の部会の案件でもけっこうなので，ご発言を頂きたい。

○鈴木委員　私，１１月の部会は所用があって出席ができなかったが，他の部会というよりも，私自身が所属する第２部会の関連だが，先ほど，笹川部会長から報告があった中に，生活支援体制整備事業の支え合いのしくみづくりの中で５年目になるが何も進んでいない状況ではないかというご意見があったというところで，その部分については，推進員もそれぞれの圏域でさまざまな場面で活動はしているかと思う。今，南区全体で地域の中でのお互いさまの活動を進めているところだが，そのことについて，今回，送られてきた資料を見ながら，白根高校生との何か協働ができないだろうかということを考えていた。白根高校とのまちづくり連携事業で，白根高校生が１人１ボランティアを取り組もうという活動がある中で，例えば，生徒全員が南区民ではないのだが，それでも秋葉区民であったり，西蒲区民であったり，ほかの区民であったとしても，地域に住む住民の一人として，若い世代でも地域のつながりを求めていき，地域の助け合い，支え合い活動を進めていってくれる先導になってもらえないだろうかと考えていた。私が考えているものが当てはまるかどうか分からないが，地域の助け合い活動を進めていく中で，南区では今年１月と９月に助け合いの学校を開催して，区民の１００名を超える方から受講していただき，地域の中での住民同士の助け合い，プライバシーを守る，あるいは最低限のルールと，まだこんなことがあるということを学んでいただいた。実際，助け合い活動が進んでいることは事実なのだが，そういったことを高校生も一緒に助け合いの学校を受講していただき，進めていくことはできないだろうかということを考えていた。もし，こちらのほうは，第２部会と白根地区公民館の担当ということになるが，その辺り，また部会員の皆さんと公民館と一緒に意見を交わしながら進めていけたらと感じていた。

○議長（小田会長）　ほかにどうぞ，発言いただきたい。

○川村委員　南区まちづくり支援事業のバイパス開通後の空洞化が懸念されているまちなかをはじめとした，区の活性化に向けた議論を進めるために設立された，にいがた南区創生会議の取り組みを支援するというところで，マルシェを開催されたと思うが，これは年１回だけの開催だったのだろうか。もし，１回だけの開催だとした場合，この１回だけで空洞化の部分がとても活性化するという形には思えないが，一応，年１回という形で終わりということなのだろうか。

○議長（小田会長）　今，空洞化防止策でマルシェについて発言があった。このことについて地域総務課長，ご発言いただけるか。

○高野副区長　マルシェだが，令和元年度については１回ということであり，６月９日に開催したということである。これは今後，マルシェという形ではなく，人づくりを含めて，議論の場を設けていこうという方向性であり，令和２年度の事業内容としては，担い手の育成とワークショップの開催，そして未来ビジョンの作成ということに軸足を移していくという整理をしており，その事業費が１８０万円というところである。

○川村委員　あと公共交通強化のところで，具体的に今後，進めていくというところで，もう少し具体的なところをお聞かせ願えればと思う。

○議長（小田会長）　公共交通の整備についてである。この具体的なものを知りたいということである。これも地域総務課長。

○高野副区長　それはハード整備のことをおっしゃっているのだろうか。
○議長（小田会長）　ハードのほうではなく，ソフトの事業についてだろう。
○高野副区長　そうしたら，資料のＡ３の２枚目を見ていただくと，３番目にまちづくり支援事業の記載がある。先ほど，私が申し上げたが，令和２年度の事業概要がここに書いてある。今まで，マルシェ等でにぎわいを創出していたが，これからは民間主導によるイノベーションまちづくりということであり，担い手の育成等を行っていくところに，実際に取り組んでいくということである。
○川村委員　了解した。
○渡邊（喜）委員　今，マルシェの話と地域の活性化ということでお話が出ていたが，先般，今のバイパスの近くに新しい商業施設や娯楽施設を来年から埋立を始めるというような記事が載っていた。そうするとマルシェは自然消滅ということは，多少理解するか，しないかは別にして個人差があるから，新しい商業施設を作った場合，それで白根の旧商店街はどういう位置づけになるのかということを両建てでやられるのかと。それよりも旧白根のほうはどのようにお考えかということをお聞きしたいと思っている。
○議長（小田会長）　先般の新潟日報における発表を受けてである。このことについて，どなたからお話しいただけるか。
○高野副区長　とりあえず私から。先ほどの資料の２枚目のＲ１欄の記載を見ていただきたいのだが，こちらは令和元年度の事業概要が載っている。三つ目の黒ぽちに交通結節点の整備とバス路線の再編をふまえた調査・検討とある。こちらが今回の商業施設を含めたすべてにおいて，公共交通の可能性を検討するものである。その結果を各コミュニティ協議会にお戻しして，意見を頂き，どのような形がいいのか，将来的な考え方をまとめていくということを今，創生会議でやってもらっているところである。
○渡辺区長　開発の関係だが，１１月１８日から縦覧が始まったということである。つまり縦覧というのは，この地区にこういう施設ができると，建ぺい率や，そういうものが載っている。それをふまえて，その計画に対して，いろいろな意見をもらおうということで，縦覧が始まっている。日報の情報の中では，加賀田組が開発するということで，中身については，まだ大まかにしか決まっていないが，温浴施設と農産物を売るようなもの，レストランなどをやっていきたいという情報だけはきている。最終的には開発業者がそこにどういうお店を出していくかというところを決定して，そこの開発を進めていくということである。予定としては，農地なので，お米を一回採ってから，それが終わった後，来年９月以降に造成して，そこでお店を作っていくと。私どもとしては，もちろん加賀田組の開発だが，一番大きかったのは，創生会議の皆さんがそこの地域活性化モデル，移住モデル地区指定を受けたことが一番大きかったのではないかと思っている。なかなか白地を開発するということは難しい状況だが，今回は南区の開発の地区計画を変更して，あそこを開発できるようにしようということである。今回の開発の方法としては，今までなかなか新潟県にはなかった観光交流型の方式で開発を進めていこうということである。だから，今回この開発が進めば，人を呼ぶような施設を作っていこうと。こういう目的を持って施設を作ってくれということで開発業者にお願いしているということになる。今まではなかなか開発できなかったところを開発できるようになったということは，地元の若い人たちが中心となった皆さんの力が結集したうえで，こういうものが地元の事業者から提案があったということで，私は非常にこれからの南区にとっても，あの場所がちょうどカイトタウンもあるし，いい場所になるのではないかと思う。
　もう一つは，その中で，先ほど公共交通の話が出ていたが，最終的にはここの目的というのは，人を呼ぶためのターミナル的な位置づけとして，あそこを使うということもあるので，そのところに必ずバスが通って，タクシーが出てという，交通の拠点として使っていただけることが最終的な，この南区にとってはプラスになっていくのではないかと思っている。ただ，先ほど申し上げたように，これから９月以降に開発が進むし，今回，新潟日報から書いていただいたおかげで，いろいろなところから出店の問い合わせも来ているという話も聞いているから，最終的な開発がどのようになっていくのか，民間主導の開発なので，私どもとしては，情報は入っていない。ただ，そこの温浴施設という一つが，やはり地域の農家の方々が疲れたらお風呂に入るとか，地域

の皆さんがそこで楽しんでいただくような施設になるのではないかと思っている。最終的なものというのはこれからになると思うので，また情報が入り次第，皆さんにお伝えしていこうと思っている。

○議長（小田会長）　渡邊委員の先ほどの発言は，今，区長が説明された開発計画の縦覧が１８日から開始された。この計画とあわせて旧中心市街地の活性化との両輪，併用のまちづくりはどうなるのかというほうが趣旨だろう。

○渡辺区長　私は開発の話しかしなかった，すまない。

ただ，先ほど申し上げたように，観光交流型ということなので，外から人に来てもらうという施設だから，あとはまちなかを活性化するために，そこに来ていただいた方々をどうやってまちなかに引っ張っていくかということは，地元の方から考えてもらわなければだめな話だと思う。これは最終的に行政がやることではなく，民間の方々があそこに人が来るのだから，何とか人をまちなかに連れてくる方策を考えようということを商工会等が中心となって考えていくべきだと思っている。これは行政があくまでも手を出すことではなくて，支援はできるとしても，最終的にはまちなかの人たちが，自分たちの経済効果を上げるためにどうすればいいかということを考えていただきたいと思っている。

○渡邊（喜）委員　ご存じのとおり，南区は少子高齢化が進展しており，当然，各自の収入も減少傾向になっていくと，区の収入も減少傾向になっていくというようなことになる。そうすると当然，今，お話があったように区外から人をいかにして集めるかということが一番大きな問題だろうと思う。その点は，いわゆる区の仕事ではないと言われると，どうかなと。協働してやっていただきたいのはもちろんだが，これはせっかくお金をつぎ込んで，立派なゾーンをいろいろと作った割には，人が集まってこなかったなというような結果になることを，私は非常に危惧しているものだから，ぜひ成功させていただきたいということが一点ある。これが一番大きな問題ではないかと思う。やはり将来を見すえて，商業，あるいは産業ゾーンというものを作られるということだから，そこの大事なところだけは一つ，いかにして知恵を集めていくかということを創生会議で徹底的に検討をお願いしたいと思っている。

○渡辺区長　行政が何もやらないということではなくて，今回の許可にあたっても，行政は精一杯取り組ませていただいているし，先ほど申し上げた公共交通についても，ここを拠点として南区が動けば，有効なバス交通につながるのではないかということで，私ども，全然逃げているわけではないので，そこを使ってこのまち，この白根地区を盛り上げていくということが大事だと思っているので，私たち，今，言われるように，全く逃げているわけではないので，それだけはご理解いただきたいと思う。

○渡邊（喜）委員　了解した。今，力強いお言葉を聞いたので，少し安心しているが，今後の南区の将来をはっきり左右するくらい重大ないい話，一面非常に危険な話みたいなところがあるが，やはりチャレンジするところが一番大事なので，チャレンジしているところ，成功に向けて頑張っていただきたいと思う。

○議長（小田会長）　渡辺区長，先ほども区長のお話で，地域総務課長のお話の中にもあった創生会議における議論の状況について，地域やコミュニティとの連携，あるいは説明に少し触れられたが，その日程等を具体的にお話しできないだろうか。今後の動きについて。

○渡辺区長　今後の動きだが，今，シミュレーション，つまり南区に区バスや定期バスや乗合タクシーなどいろいろ走っているが，それをまずどのような形にしていけばいいかという案を今，創生会議の中で作っていただいている。その案を基に，創生会議で作ったものを地元に返していくということだから，全部各コミュニティ協議会一つずつではなく，地区を決めて何か所か説明に入って，皆さんのご意見を聞きながら，最終的な公共交通をどうしていけばいいかという話になってくると思う。それにあたっては，南区だけでは完結しない部分があるから，最終的には他区との連携がどうやったらできるのか。例えば，他の市町村とどうやって連携ができるのかということも含めて考えていかなければならないことだと思っている。日程的には，１２月いっぱい位にシミュレーションができるから，来年の３月位を目途に各コミュニティ協議会等に集まっていただき，ご意見を聞くということで計画している。

○鞠子委員　今のことに関連することだが，先日，南区生活交通改善プラン見直しの会議に３日

前か４日前に出させていただいた。その中でもお話をさせていただいたが，にいがた南区創生会議の情報がよく見えない。要は行政と創生会議のほうの情報は来ているのかも知れないが，ここに会議録一つ出てこない。だから，第１部会として今，区バスがうんぬんというのは，第１部会のテーマとしてやっているのに，創生部会のほうの情報がこちらには展開されないというのはどんなものかと考える。

平成２６年のデータで，要は南部から白根中心部に来る路線はできていると。人は集まっていると。北部は全部上に行ってしまうというような状況のデータはたしか上がっていると記憶している。ただし，南部の人口減というのはけっこう大きいわけで，その人口減を背景にして，先ほど渡邊さんが言ったように，バイパスに７割の車が入って，３割は旧道を走って，旧の商店街などはまず走っていない。そこをどうするかということを，言い方は厳しいが，だめなものはだめだという部分も意見としても出てくると思う。いかにそれは頑張ろうという気持ちもあるのかもしれないが，今，現実がどうだから，どうしようよということをいかに情報を集めて，みんなで議論して，納得した中で動くということは，私は一番最善の方法ではないかと感じる。

話は戻るが，第１部会として，これは令和元年度上半期のものだが，区バスの利用率というのは小学生が減ったが，ほぼ横並びだと。タクシーが１割減という状況の中で，それも含めてもう一度，要は創生会議でうんぬん，行政でうんぬん。ここだけでうんぬんではなくて，それを取りまとめた一回議論をしてもいいのではないかという提案をさせていただきたいと思う。

○渡辺区長　おっしゃるとおりだと思うが，ただ，この自治協議会で本来やる仕事かもしれないが，細々としたことまで自治協議会の委員にお任せできないということもあるので，まずそこで原案を作るということを創生会議でやってもらっているというのが今の状況である。皆さんに全然話をしないということではなく，これは一番はじめ，創生会議の委員をこの自治協議会の中から選んでいただくときに，そういう目的で創生会議の委員を出してくれという説明はさせていただいている。だから，その中で，今の創生会議の委員になっていただいている委員がいらっしゃるので，これからはある程度，会議の状況，今まではどちらかというとまちなかを活性化させようというマルシェの回数が多かったということもあるが，これからもう一度，創生会議の方々もマルシェばかりやるのではなく，原点に返って公共交通とまちづくりの仕掛け人をどうやって育てたらいいのかというところまで，今，彼らが話し合ってくれている。皆さんお手元に「寄合」というチラシが入っているが，もう一度，皆さんの意見を聞きながら，このまちづくりを進めることで原点に返ろうということを彼らは今，考えてくれているので，そんなところから進めていこうと。

ただ，公共交通については，待ったなしなので，どんどん収支率３０パーセントを下回ると廃止の方向になるということもあるので，これを何とか早めにやっていかないとだめだということで，今，シミュレーションをやってもらっているという状況である。

あとは，創生会議で一番やってきた経過というのは，まさにイベントをやることではなくて，公共交通，ターミナル化をしていこうという人たちが集まった経過もあるので，まずそこから始めていこうということでもやっているので，予定としては１２月位までにシミュレーションが終わるので，来年になったら，皆さんにお話しできるときがくると思っているので，よろしくお願いする。

○鞠子委員　情報を提示ということを一番にお願いしたいと思う。

別件だが，６番のＡ３の３枚目の幸齢者をつくる地域づくりのところの内容についての確認だが，令和元年度においては，事業内容で，地域の茶の間の利用促進を図るため，スタンプカードうんぬんと書いてある。右の評価としては，支え合いのしくみづくりが，まだ地域に浸透しているとは言えない，引き続き，地域住民への啓発が必要ということは書いてある。言いたいのは，包括ケア事業の中で，渡辺区長なども，篠田前市長もどうなるかとお話ししている中で，地域の茶の間というものと，支え合いのしくみづくりというもの自体が，関連は全くないわけではないが，私なりには別物だと考えているわけだ。要はお茶の間というのは，元気なお母さんたちが集まってお茶を飲んで，それがゆくゆくは地域の支え合いになっていくという部分もあるが，今，私ども大通でやっている「思いやりネット」みたいな，なかなか外に出られない方に生活支援をしているという部分についての評価と，茶の間の評価というものをはっきり分けて評価して整理

すべきではないかと。茶の間は進んでいるよと言うならいいのであって，今度は，支え合いは足りないから，令和２年度にパンフレットをバージョンアップして，みんなに展開して広めたいというような形だと思うので，少し整理をするときにそういう分け方をすると。なぜできないかということをもう少し，ただ報告だけではなくて，議論をしている部分があってもしかりではないかと思う。今，大通の「思いやりネット」が，１か月前は，秋葉区の社会福祉協議会から依頼があり，どういうことをやっているのだと，教えに来いと言われて行ってきた。この前も東区の牡丹山のコミュニティ協議会の会長から大通に来ていただき，そういう説明をした。そのようにだんだん必要性がどこの地域も，茶の間は整っていると。ただ，支え合いのしくみづくり的なところが必要だということが目に見えてきた中で，もう少し南区もその中身を分析した中で，なぜできないかということを議論しながら，どういう方向でやっていくかということをご検討願いたいという意見である。

○議長（小田会長）　今の鞠子委員の意見について，区長，茶の間の推進と支え合いのしくみづくりの充実，これはリンクするところもたくさんあるが，少し別の観点から組み立てていくことも重要でないかというご意見である。

○渡辺区長　確かにおっしゃるとおりで，茶の間を作ることが目的ではないと思う。それはおっしゃるとおりだと思う。ただ，基盤を作っていくということは，当初，支え合いのしくみの中で，地域での基盤を作っていくことが，地域包括ケアにつながるだろうということで，この茶の間を一生懸命作ろうという動きがはじめにあったが，ただ今，大通でやっているような「思いやりネット」みたいなものも非常に大事だし，ほかにやりたいという地区も出てきているので，大通でやっているものを何とか参考にしていただいて，その地域でやっていただきたいという話はしている。おっしゃるとおり，茶の間がすべてではないと思っているので，ただ茶の間を作ったら，次期，何が大事かというと，つまり月１回ではなくて，週１回程度，お年寄りが集まるような施設でないと，結局，１か月に１回だと安否が全然分からないわけだ。だから将来的に１週間に１回顔を合わせるような，そういうところに皆さんから集まっていただき，元気だったね，今週も元気だったねというような形で，お互いに顔を合わせるということが大事である。そういう形にいければいいと思うので，今後，力を入れなければだめというのは，相互事業的に移行できるような茶の間をいっぱい作っていくということが，これから大事ではないかと思っている。

○鞠子委員　了解した。ありがとうございます。

　こういう言い方はおかしいが，仲がいいほど，高齢者になって，自分の庭の草刈りもできなくなってしまうというのは，逆にいうと仲がいいから言いづらい部分ということもある。その辺をうまく整理して，ご近所ネットとか，地域の高齢者支援のほうにうまく動けるような，うちみたいに強引に作ってしまうのではなく，自然的に流れるようなものが一番望ましいかと，私なりには思う。

○議長（小田会長）　先般の第１部会の議論の中では，随分とストレートな物言いで，激しい議論が交わされた。だめなものはだめじゃないかと。こういう言葉まで出てきた。地域の，あるいはその時点の問題をもっときちんと押さえていこうと。そうすれば課題が組み立てられるかと。課題がきちんと明確になれば，対策を講じることができる。この三つの論法をもっときちんと組み立てていかなければいけないと。だめなところにだめな対策を持っていっても絶対にだめなのだから。これを少し割り切ってものごとを見ていこうという話も出てくる。

　創生会議の議論もされた。他の区の幹部の皆さん方，あるいは区内の行政に詳しい方のご意見も，南区の創生会議について，さまざまな意見を頂戴している。区長がちらっと申し上げたように，本来，自治協議会が果たすことができる役割の範疇でないかというご意見も，たくさんの方がされていた。いずれにせよ，今度，今，区長が明確に今後のスケジュールについても発表されたように，各コミュニティなり地域に，現在の創生会議が議論して，組み立ててきたシミュレーションを皆さんの前で披瀝をすると。大いにこのシミュレーションを基に，地域の中で，あるいはコミュニティの中でさまざまな観点から，なおより深い問題点と課題を明確にしていく努力をしていく必要があろうかと思う。鞠子委員からご指摘された，お互いの情報の交換，連携がこれからますます重要になってくると思うので，行政のほうも創生会議のメンバーのほうも，あるいはここから創生会議に出ている方も，その旨，十分心して会議に臨んでいただければありがたい

と思っている。ほかにどうぞ。
○阿部委員　私のほうから，これは自治協議会に合っているかどうか分からないが，２の白根高校とのまちづくり連携事業についての提案をしたいと思っている。昨日，こちらにいらっしゃる小林誠委員と一緒に，白根商工会工業部会で，新潟工科大学の風洞実験を見学しに行ったときに気づいたことだったが，実は白根の大凧で，長年，疑問にされていた部分があり，それはどういうことかと言ったら，私が子どものころは，凧が川面にぴちゃぴちゃとやって，滞空時間が非常に長かったと。ところがここ数十年の中で，上空は非常にいいが，川面に近づいたらすぐに落ちてしまう。これは長年，凧を作っている人たちにとって，昔は非常にいい凧だったのだが，最近の凧はどうもよくないということで，若手の人たちはかなり傷ついているというか，一生懸命やっているのだが，どうもうまくいかない。この長年の疑問を何とかこの風洞実験から答えが出ないものかと。つまりよく言われているのは，土手の高さが，私が子どものころの四十数年前のころは，土手は砂利道で非常に低かった。だから，川面の風が非常に強くて，そのまま上空の風と川面の風がそんなに大差がなかった。だが，堤防をかさ上げしたことによって，上空の風と，川面に近い部分が非常に違ってきている。それによって，凧がすぐ落ちてしまう現象が起きているのではないかということがあったが，このような現象を何とか白根高校の皆さんのお力を借りて解決できないものかと考えている。
　具体的にどういうことかというと，新潟工科大学には，彼らが言うには，日本で二，三しかない風洞室を持っていると。１．８メートルの非常に大きな風洞室だが，そこに３００分の１の凧の川と橋と，例えば建物を高校生から作っていただき，それを風洞実験に置くことによって，風の強さを調べると。これによって，一つはまず凧の疑問を解消することもできるだろうし，もう一つ副次的な効果としては，凧というのは，流動力学，空気力学もそうだが，非常に物理的な，すごく難しい。もし計算式を立てるとなると，非常に難しい計算式になる。それによって，彼らが数学的な，あるいは物理学的な興味を持って，あるいは凧のまちにある白根高校が物理と数学が大変強い高校であるということを，ゆくゆくはそういうことがきっかけになりながら，凧合戦にまた関わっていただき，凧の力学をぜひ勉強していただく機会になるのではないかということで，ぜひそういう作業のボランティア活動も含めて，凧の原理を知っていただくような活動をしていただければというのが，私からの提案である。
○議長（小田会長）　地域総務課長，このことについて何かコメントあるか。大変すばらしいご意見である。
○高野副区長　Ａ３横資料の１枚目の一番下の番号２だが，中身としては地域コーディネーターを配置して，それを仲介役としてまちづくり人材を作っていこうということである。主にはボランティア活動を実施しているが，今回，白根子（しろねこ）行列イベントの関係で商品開発に携わるなどしている。今ほど，委員のお話を聞きながら，なぜ高校生なのかと思っていたところだが，学びの場としてということになると，やはり学校側の教育の場においてどうするかということがあるので，公民館とも調整し，頂いたお話を詰めていきたいと思う。
○久保委員　新規事業１の角兵衛獅子の魅力発信事業についてお尋ねしたいのだが，この事業内容を見ると，ハードと観光ということが書いてあるが，先ほど，第３部会の説明にもあったが，親が学業に一生懸命で芸能に力を入れていただいているか疑問であるということは，角兵衛獅子をやる子どもたちをこれからずっとある程度の人数を継続して作って，継承していかなければならないと。それがなくなってしまったら，いかに立派なものを作っても，それは観光にも何もならないということで，まず一番大事なのは，子どもたちがきちんと伝承することを考えることではないかと思うのだが，具体的に，地域の人たちにヒアリングをやっていらっしゃると思うし，何とか継続しようと頑張っていると思うが，現状とこれからどういう形で支援をしていこうかというところをもしお考えがあればお聞きしたい。
○議長（小田会長）　角兵衛獅子の伝承，拡充についてである。
○高野副区長　まず１番目の角兵衛獅子の魅力発信については，中身が二つあり，農環センターを見やすくして，観覧しやすい環境を整備するということと，角兵衛獅子の舞いを首都圏でも発信していこうということの二つである。発信については，もう一つあり，Ａ３横の資料の２枚目の番号４，文化資源魅力ＵＰ事業において，南区伝統芸能フェスタを継続し，ここで伝統芸能を

披露する場を設けることによって，魅力を伝えていこうと考えている。子どもたちの育成と担い手をどうやって増やしていくか等については，月潟の所長から。

○登石月潟出張所長　子どもの育成方法ということでご質問があったが，現状，角兵衛獅子保存会の割烹久元の女将さんと娘さん２人おり，今，娘さん２人が現実に指導を行っているところである。今，獅子の子どもたちは，養成中の子どもを含めて９人になっている。あくまでも指導育成方法については，当然，角兵衛獅子保存会の考え方が一つになっているが，こちらのほうからするのであれば，もう少し，卒業していった子どもたちの保護者といったＯＢを抱き込みながら進めていこうかとは考えている。ただ，これも先ほどもいったとおり，あくまでも保存会の考えていることが絶対になるので，今ここでどうこうということは，私からは言えないが，一応，そんな形で保存会には打診しているところである。また，今ほど副区長が話した舞を披露する機会を設けてという，今回の予算の関係だが，今，獅子の子たちが披露する場が，６月の月潟まつり，９月の大道芸フェスティバルの年２回である。正直，子どもたちからするのであれば，地元の２回だけの披露という形で，かなりモチベーションが低下しているのかとは感じている。９月１６日に国民文化祭で天皇陛下の御前で技を披露したが，非常に子どもたちも喜んでいたし，そういう機会を与えることによって，間違いなく子どものモチベーションというものは上がってくるかと思う。それが保存会のほうに新たな子どもたちが入る理由の一つにもなるかと思うので，この予算については，必要と考えている。

○久保委員　保存会の考え方が絶対ということなので，なかなか周りからいろいろと言うことができない状況なのかもしれませんが，ぜひ保存会と一緒に，また考えながら，やはりどこの地域もこういった伝統芸能というのは，ほとんどやる人が少なくて，消滅していってしまう。そういうケースが非常に全国的に増えていると思うので，ぜひ角兵衛獅子を残すために，頑張っていただきたいと思う。

○議長（小田会長）　角兵衛獅子を演ずる子どもたちも，前回の国民文化祭で，両陛下の前で演ずることができたと。非常に感激していたようである。これがいいほうに向かってくれればと思っている。

　柏崎の鵜川の上流に綾子舞というより歴史の深い伝統芸能がある。だんだん演ずる方が少なくなった。ましてやそれを中心となって伝承していた鵜川中学校が閉校になった。決定的なダメージであったが，あそこも現上皇后様がおいでになり，子どもたちにひさしくお声がけを頂き，再びよみがえってきた。しかし，以来十四，五年たつと，また次の下火になっている。幸いにして月潟の小学校も，中学校も，まだまだ健在である。今のうちにきちんと郷土のすばらしい伝統芸能が継続できるような体制ができればいいと思っている。皆さん方，総意を集めて臨んでいければと思う。

○今井委員　今の角兵衛獅子の魅力発信事業というところになるが，角兵衛獅子のほうだが，私ども，ＰＴＡのほうでも研究大会で角兵衛獅子を披露していただきたいと思いお願いしたのだが，１１月９日だったのだが，ちょうど，中学校の定期テストと重なり，今回は見送った。角兵衛獅子は，ここに首都圏へ向けて発信するというＰＲのところだと思うが，実際，新潟市中央区や向こうのほうでも，けっこう角兵衛獅子は名前が知られており，ぜひ見たいという方が非常に多かった。今回は残念だったが，先ほど，登石所長も言われたが，定期的だと年２回だろうか。その年２回という回数が少ないかと思っている。なかなか見たいが見る機会がないという声が多くあり，ただそこは今，小・中学生がメインでやられているかと思うが，学業の折り合い等もあるので，その辺は気をつけなければいけないかと思う。首都圏へ向けて発信とあるが，本当に首都圏へ行って舞を披露するということもあると思うが，その前に，毎年２回位の披露の場プラスもう１回位は，定期的に新潟市の何か大きなイベントで角兵衛獅子を披露できるような舞台を作っていただけたらいいのではないかと，この事業の中に入れていただけたらいいのではないかと思っている。

○渡辺区長　実は年２回だったが，秋の伝統芸能フェスタで昨年，角兵衛獅子を踊っていただいた。今年も角兵衛獅子を踊っていただきたかったのだが，国民文化祭との兼ね合いがあって，それがかなわなかったのだが，今年は新飯田からも来ていただいたし，ああいう形で地元の中で，自分たちの芸能を見せていくということが大事なことである。昨年は，学習館のステージでやっ

たのだが，満杯で，立ち席まで出るくらいの人気ぶりだった。だから，やはり地域で毎年は無理としても，２年に１回くらいは，皆さんに見ていただくような機会を作っていかなければならないかと思っている。だから，これは地域総務課が主催でやっているので，そういうところを十分加味しながら，地元の方々にも見ていただけるような形でやっていければと思っている。

○議長（小田会長）　いかがだろう。他の部会の絡みについて，随分，すばらしいご意見を頂戴することができた。なお，まだこれについて，発言をしておきたいと。こういう意欲的な方がいらっしゃったら，挙手をお願いする。登石所長も角兵衛獅子の保存については，重要な役割を果たされているので，ぜひ今のご意見を参考にしていただきたいと思う。

ほかにないだろうか。ないようである。では，この区づくり予算についての項目は終わらせていただく。

３　部会報告

○議長（小田会長）　続いて，この問題を除いた各部会の報告を改めて各部会長からしていただく。まず，第１部会の鞠子委員から，第１部会の会議の内容について，報告を頂く。

○鞠子委員　第１部会では，令和２年度の私どもの事業については，従来どおり，（１）の公共交通ＰＲ事業，（２）の防犯・防災事業についてという形で執り行うこととした。（１）については，４年，５年くらいの形でやっているが，先ほど，お話ししたように，乗車率が並行の中で，ただ，買い物やいろいろな意味での区バスの利用性，必要性というものは，間違いなく上がってくる中で，いかに知恵を出しながら，皆さんに乗車をしていただき，収支率３０パーセントをより以上にしたいなというところで活動を行っていきたいと考えている。

（２）については，防犯・防災事業だが，特に防犯の１年生の反射材配布は，令和２年度までは継続する。ただし，令和２年度の中で，交通安全協会や防犯協会や地域の子ども会というところがいろいろな活動をやっているので，その辺の情報共有を行って，令和３年度は見直しを図るべきではないかというような考えでやっていきたいと考えている。

○議長（小田会長）　第２部会の笹川部会長，報告を頂く。

○笹川委員　第２部会では，出会いの場づくり事業について，話し合いが行われた。業者の方から来ていただき，男性の方は定員以上の申し込みが５０名以上だったかあったので，参加者２０名に絞るという作業をした。今月の２４日に男性事前説明会というものがあり，そちらに２０名ではなく，２１名，キャンセル待ちの方も含め，全員に参加していただいた。女性の方がまだもう３名ほど，人数が足りていない。どうか委員の皆様，お声がけいただき，まだまだ応募可能なので，どうぞよろしくお願いする。

家族ふれ愛月間事業は，１１月１０日に上映会とコンサート，小中学生による絵画川柳展を行った。そのときのアンケートの結果を確認した。

３番目として，第２回教育ミーティングについて，実施計画案について説明があった。１月９日１３時３０分より行うということであり，これについて了承した。令和２年度第２部会提案事業については，自治協議会の事業として上映会が果たして今のままでいいものかどうかということの話し合いや，絵画川柳展の子どもたちの負担等の問題点を共有した。小学校４年生に絵画をお願いしていたが，夏休みの宿題と重なり，４年生を対象にした提出の宿題が重なって，大変負担が大きいのではないかという声が小学校のほうから上がっていたので，それについて確認した。新たな事業としては，地域活動の担い手を育成していくような事業はどうかという提案があった。結果，家族ふれ愛事業は継続していくが，上映会に限らず，第２部会の広いテーマからテーマを絞り，その目的に合った事業内容を検討する。また絵画川柳展は，対象者や募集方法などを見直しながら継続していくことになった。

○議長（小田会長）　続いて，第３部会長の冨井委員から報告いただく。

○冨井委員　第３部会は１１月１２日に行った。先ほど言った区役所企画事業のほかに，令和２年度の自治協議会提案事業について検討した。第３部会では，観光案内看板は，とりあえず今回は取りやめて，親子農業体験事業を継続して行うことにする。また，曽我・平澤記念館などの魅力を区内外にＰＲするための事業に取り組むことに決定した。

また，ファミリーダンス教室も，とりあえずは行うようにということで決定した。後ろのペー

ジをめくって見ていただきたいのは，今年の１２月２１日のファミリーダンスである。先着１００名となっているが，まだまだ入れるので，皆さんから各地域，色々なところにＰＲしていただきたいと思っている。よろしくお願いする。
○議長（小田会長）　続いて，広報部会長の田中委員から報告いただく。
○田中委員　第４回広報部会は，本日午後１時より行った。内容としては，１２月１５日に発行する南区自治協議会だより第１６号についての紙面の最終確認を行った。第１６号の紙面の内容としては，表面に各部会の活動報告と部会長のあいさつ，裏面に大鷲夜まつりと自治協議会委員研修会の報告などを載せる。
○議長（小田会長）　以上で四つの部会の報告がすべてなされた。この報告について質疑があれば発言いただきたい。ないようである。会議を次に進める。

４　報告
（１）南区総合防災訓練の報告について（地域総務課）
○議長（小田会長）　次第第４（１）南区総合防災訓練について，地域総務課から報告を頂く。
○高野副区長　１１月１７日（日）に実施した南区総合防災訓練について，ご報告させていただく。まずもって，今回の南区の訓練にご協力いただき，感謝申し上げる。配付資料３をご覧いただきたい。
　今回の南区総合防災訓練は，水害を想定し，午前８時３０分に警戒レベル３避難準備・高齢者等避難開始を発令したことを受け実施した。参加者数については，多くの地域で同日に自主防災訓練を実施いただいたこともあり，南区全体で３，９０２人，昨年度と比較して７３９人の増，率にして２３．３パーセント増加した。
　下段のアンケート結果をご覧いただきたい。訓練終了後，各コミュニティ協議会や自主防災組織にアンケートを実施し，まとめたものである。今回，頂いた内容を基に，改善に努めてまいりたいと考えている。次年度については，今年度で各地域への防災専門講師を派遣する支援が区内で一巡したことから，総合防災訓練を統一日で実施しない方向である。各地域では，学校と連携するなど，地域全体での取り組みも多くなってきている。区としても，引き続き，地域の自主防災活動を支援しながら，防災啓発に努めてまいりたいと考えている。報告は以上である。
○議長（小田会長）　今，１１月１７日に実施された南区総合防災訓練について，詳細な報告を頂いた。このことについて、出席の委員のご意見を頂戴したいと思う。
○鞠子委員　中身についてのうんぬんではなく，確認だけだが，今年度をもって全部やったから，来年度からは各コミュニティ協議会や各地域に任せるという形なので，私どものほうも，防災士も何人もいるし，手前味噌だが自主防災会もしっかりやっていると思うが，自分たちでテーマを作って，どのようにやっていくかという形で，各地域が同じような事業をしていくと，私なりには推測している。ただ，そこで一つ必要なことというのがあって，それが虎の巻という言葉の１行になっているだけだが，やはり何をベースにどうしたらいいかみたいな形をもし方向づけみたいなものを行政が統一したものを作っておくべきものではないかと思う。例えば，私どもの自主防災会が５年か６年前に本庁のところで教育があり，前に一度大通が行って，教育をされた中では，自主防災計画を作れと。それは自主防災会で作ったものを，まず自治会でも欲しいだろう。自治会の防災計画は簡単で，連絡網がきちんとできていて，どこの公園に逃げて，だれが筆頭になってどこまで行くかみたいな形が，ほんの数行でもいいから書いていればいいみたいな。みんながそれを周知して，そのように逃げれば，自治会の単位として動くと。そういう細々した部分かもしれないが，地域総務課のほうで，できればあるべき姿の中で，こういうものが必要ではないか。こういう体験が必要ではないかというようなメニューも，虎の巻の中で作っていただいて，例えば３年後に総括するというような運用があってもいいのではないか。今は虎の巻が見えないので，私も何とも言えないが，そういうものを，立川主幹のほうからいっぱい出してもらって，まとめてもらえばいいのかと思っている。
○議長（小田会長）　次年度以降を見すえた地域防災虎の巻的なものの決定をというご意見である。名前が出たので，立川さん，お話しいただけるか。
○立川地域総務課主幹　第１部会のほうでは説明させていただいたが，今回，先ほど説明があっ

たとおり，地域の支援で防災専門の講師を派遣する事業が一巡したということで，同一日に行うと防災資材が足りなくなったり，実際，防災専門の講師を呼ぼうとすると重なり合って，防災専門講師も呼べなくなるということで，来年度は統一日とした実施はしない方向になった。その代わりではないが，各地域が学校とせっかく連携し，地域全体の取り組みになってきている。それについては，今後もサポートを続けていく。そのほか防災会の役員も替わられたりいろいろあるので，区としては，各地域の防災訓練のサポートを行いながら，地域とともに防災虎の巻，虎の巻は何だと言われると，防災グッズの作り方だったり，過去の災害の情報だったり地域の連絡網であったり，先ほど，鞠子さんが言われた，地域防災計画まで踏み込むかどうかは，市の全体の問題もあるので，そこまで踏み込むかどうかまではいっていないが，そういうものを一冊にして，役員が替わられても，引き続き防災に取り組めるような一冊にしていきたいと考えている。また，防災士のほうも今，南区内に２９名おり，いない地域も若干あるが，その方々と連携して，今，もうすでに始めているが，自治会単位での防災ミニ講座。特にハザードマップの見方など，そういうものについて力を入れていかなければいけないのではないかと考えている。

○議長（小田会長）　ほかにどうぞ発言いただきたい。ないようである。南区総合防災訓練についての報告，議論は，これで終わらせていただく。

（２）その他

○議長（小田会長）　続いて，次第第４（２）その他について，まず事務局から何かあるか。

○五十嵐産業振興課長　産業振興課から二つお話しさせていただく。一つが，皆さんにお配りした「キャレル」１１月２０日号だが，ページは１０８ページを見てもらいたい。「ル レクチエ×ピエールエルメパリこれから始まる物語」ということで，今回，キャレルにおいて，白根のル レクチエの魅力について掲載していただいた。この内容については，今までも皆さんにお話しした区の本間アドバイザーがインタビューを受けながら，魅力を語ってくれたので，今日，本間アドバイザーが都合により来られないが，キャレルの取材に立ち会った産業振興課の小林から，若干その辺の取材の内容も含めてお話しさせていただきたいのと，その後に私のほうから，もう一枚，南区におけるイベントのパブリシティ効果の検証ということで，Ａ３の横長のものを配ったので，それについて二つ順次ご報告させていただきたいと思う。キャレルのほうからご説明させていただく。

○小林産業振興課主事　キャレルの特集のページをご覧いただきながら，ル レクチエブランディングについて，概要をご説明させていただきたいと思う。１ページにいらっしゃるこちらのフランス人の方だが，クリストフ・ドラピエさんという，ピエールエルメパリという今，東京の女性にはかなり人気の高いパティシエのお店のエグゼクティブシェフということで，製造を行われている方である。昨年の１２月に本間アドバイザーから報告もあったかとは思うのだが，フランスのほうで試食会をさせていただき，この試食会にピエールエルメさんがいらっしゃり，南区でのル レクチエのストーリーであったり，豊かな土壌，技術というところをお話しさせていただいたところ，非常に共感していただき，昨年の１２月に食べて，これはおいしいということで，次年度，首都圏の自分のお店でこれを展開しようということで，今回，１２月１日から東京のピエールエルメでル レクチエのコラボメニューが発売されるという流れになった。今回，キャレルでは，東京でも非常に高い評価をされているということに注目していただき，１ページ目，ピエールエルメパリでどのように評価されたのか，どこがすばらしいと思われたのかということを取材していただき，特集記事を組んでいただいた。こちらは非常に香りだったり，ル レクチエの質自体を高く評価していただいている。きめ細やかな肌。やはりラフランスのことはすごくご存じだったので，ラフランスと比較すると肌が細やかで，皮さえもきれいだねということで，コメントを頂いて，そういう皮も活かしたデザートになるといいのではないかというお話を頂いていた。１２月１日から東京の銀座になってしまうが，そちらのカフェでメニューを出していく予定である。

　めくっていただくと，本間アドバイザーを含めて，南区などの取り組みがどうだったかということを簡単に書かせていただいているところである。一番左側にブランディング事業ということで，２０１７年から２０１９年までの流れが書いてあるので，そちらに沿ってブランディングの

概要を説明させていただきたいと思う。もともとは皆さんご存じのとおり，約１１０年前，小池左右吉さんがフランスオルレアン原産のル レクチエを輸入して，それを大事に白根の皆さんの力で育てて，昭和になってやっと大量生産ができてきたということなのだが，なかなかそのストーリー自体が伝わっていないのではないかということで，そういうストーリー，大切に育ててきたというストーリーを基軸にル レクチエのブランディングの価値を上げていくという取り組みになっている。そこの一番根幹として，フランス生まれ南区育ちのル レクチエがフランスに里帰りするというストーリーを描き，それを実際に行ったのが昨年の１２月の試食会である。まず２０１７年には，三つ星シェフのピエール・ガニェールさんのほうに，こういうストーリーがあるル レクチエという果物があるということでご案内させていただいたところ，非常におもしろい取り組みになるだろうということ，ル レクチエ自体もとてもいい果物だということを評価していただいた。それをふまえて，これは非常にニーズが高いのではないかということで，２０１８年実際にあの試食会につなげていったという形になる。

昨年，パリでの試食会を行ってみたりして，来ていただいたシェフだとか，パティシエの方からは，ぜひ使ってみたいということでお話を頂き，その中にピエールエルメさんがいらっしゃって，この１２月から出すコラボメニューにつながった。

また，フランス等に持っていくときは，今日も机上に配付させていただいているが，こちらのル レクチエウォーターのように，規格外品を使った加工品というものを使って，生果が食べられるのが１か月程度しかないので，それ以外の期間にも通年を通してＰＲできるような取り組みができるように，加工品の開発や支援にも力を入れていた。ル レクチエブランディングの中で，ル レクチエウォーターのほうも開発支援に協力していた中で，フランスにお持ちしたときに，フランスの若い人たちの間では，フレーバーウォーターというものが人気で，よくあるいろはすの桃やみかんのなどの海外版のようなものが，やはりフランスでもたくさん出ていて，そういうものを飲むのがけっこう当たり前にあるというお話を地元で伺った。そういうこともふまえて，ル レクチエウォーターや，そういうものは非常に受けるのではないだろうかという話をフランスの方からも伺った。そういう形で，フランスに里帰りを実施させていただき，２０１９年の今年はピエールエルメパリとのコラボレーションということになっている。また，引き続き，ル レクチエウォーターに関しては，ハワイの方なども非常に興味を持たれていらっしゃったり，あとは首都圏向けに今，ＪＲで関東圏のキオスクやニューデイズのような駅の売店で販売している。このような形で，ル レクチエブランディングというものを進めてきた。

めくっていただくと，南区の取り組みと生産者の声ということで書いてあるが，やはり生産者の皆さんとも私もよくお話をさせていただいており，いろいろな意見が出てくる。ただ，売るだけではいけないし，爆発的に売れたとしても，その後，下降したら意味がないとか，そういうお話をふまえながら，実際，あと５年，１０年経ったら，やはり一番危惧しているのは担い手の皆さんがいなくなってしまって，南区は最大の産地だが，その産地がなくなってしまう。そういう危機感を持つ中で，それを何とかできないかというところで，それを何とかするためにブランディング事業も続けている部分もあるので，生産者の皆さんとまたお話をしながら，進めていきたいと思っている。

最後，専門部長の方からは，ここにも書いてあるが，廃れないものになってほしいということで，ブランディングも一発花火を上げたら終了ということではなく，認知度を徐々に上げながら，皆さんがより高価なお金を出しても買いたいと思えるようなものにつなげていって，廃れないものということになっていくといいのかと，一担当としても考えている。

今回，キャレルに特集の記事を載せていただいたので，ぜひ皆様も周りの方にル レクチエの魅力だとか，地域で育てられている生産者がすごい技術を皆さんお持ちでやられているので，そういう部分を皆さんにお話しいただけると，知らない方はすごく興味を持って聞いてくれるので，ぜひ皆さんからもお話しいただければありがたいと思い，ご紹介させていただいた。

○議長（小田会長）　大変夢のあるプロジェクトでうきうきする気持ちである。そして委員各自，お手元にキャレルが１冊ずつプレゼントいただいた。ぜひ詳しくご覧いただきたいと思う。２１日からル レクチエも解禁になっている。ぜひおうちで一つずつお食べいただき，この本をお読みいただければ，なお味も変わってこようかと思う。

この事業について，もし質問があればどうぞ。

○五十嵐産業振興課長　お手元にお配りしたＡ３横の南区におけるイベントのパブリシティ効果の検証ということで報告させていただく。南区で１０月に二つの大きなイベントがあった。資料のスターウォーズの大凧が風と大地のめぐみの凧フェスティバルで揚がったことと，白根子行進曲が１０月２２日に行われた。その際，皆さんご存じのとおりマスコミ各社から非常にイベント情報を取り上げていただき，その様子がテレビや新聞，今日来ていただいている日報さんにも何回となく出していただき，パブリシティ効果があったので，その二つのイベントを比較しながら検証してみたいなということで，お話の時間を頂きたい。

１のパブリシティ効果とは何なのだろうということだが，情報をテレビなどのメディアに提供し，報道されるように働きかける広報活動のことをいう。効果としては，広告料を払わなくても，結果として広告効果が得られて，また広告と比べて，報道，ニュースなどで取り上げられるものだから，消費者の方から信頼度が高まるというものがパブリシティ効果というものになる。

２の二つのイベントの事例ということで紹介すると，１０月６日の風と大地のめぐみでウォルトディズニージャパンから白根の凧を見つけていただき４２畳の凧を揚げてくれと依頼があった。４２畳というのはスターウォーズが公開されて４２年たったので４２畳の凧を揚げてくれということである。これを揚げたということで，白根の大凧の技術の高さが再度確認というか，確信を持てるような映像が出たし，魅力を伝えることができたと思っている。

二つ目が，１０月２２日に白根商工会の白根支部が自治協議会提案事業のまちづくり活動サポート事業の採択を受け，白根子行進曲を行ったものである。これも今まで皆さんにお話ししたとおりである。

３の広告費換算をするとどのくらいなのだろうということだが，スターウォーズ大凧のほうは，イベント当日のお披露目のほか，１１日前に完成間際の大凧の作成の様子を取材していただいたということと，掲載状況は記載のとおり，テレビ民放全局，新聞は日報，にいがた経済新聞，毎日新聞，ウェブ上においてにいがた通信や映画通信，ほかで多々取り上げていただいた。これを広告費換算すると，市の広報課からの積算資料に基づいて計算すると，単純ではあるが概算で約２，１９５万円ということになる。これは経済効果ではない。テレビや新聞などの広告として，費用を支払った場合にかかる費用ということでの計算になるが，例えば計算としては，テレビでは放送エリアの分類として県内版か全国版で計算の金額が違う。放送局の区分けとしても，民放かＮＨＫかによっても違う。それらの単価に秒数を掛けあわせて金額を出したりする。ラジオはＢＳＮかＦＭかでも違う。新聞も紙面上の記事の大きさによって広告費換算の金額が違ってくるということになる。１ページだと３００万円くらい新聞だとかかるというものを基に計算したりする。

次に，白根子行進曲だが，イベントの様子のほか，お面づくりのワークショップや一枚の写真の取材，そして，先ほどから話が出ている白根高校の生徒の活動など，多面的に取材をしていただいた。掲載状況は記載のとおりだが，ここで言うと日本テレビの全国版スッキリなどにも取り上げていただき注目された。広告費換算すると右の上に書かれているとおり，スターウォーズの５倍になる。単純計算になるが概算１億円くらいになるということである。

４の効果の違いは何かということだが，この二つの数字の違いというと，スターウォーズ大凧のほうは，テレビの放送回数は多いが，１回の放送時間が短く，各テレビの放送時間はご覧のとおり，ニュースを中心に２分から３分，放送していただいた。合計１０回も放送していただいているという形になる。報道機関の取材期間は，ウォルトディズニーの都合により１１日前くらいしか広報できなかったということで短かったということがある。そのため，ポイントとなる取材のものが，凧の絵をかく場面と，凧を揚げる場面しか紹介できなかったということで，取材の部分が少ないなということである。その結果，他者と同じ視点でしか放送できていないということで，短い時間だった。それに対して，白根子行進曲のほうだが，右側をご覧のとおり，放送回数は７回だったが，１回の放送時間が非常に長く取っていただいたのが特徴である。ご覧のとおり，日本テレビのスッキリは全国版だが１０分間，ＮＨＫの甲信越ひるまえほっとが１５分。同じくＮＨＫのにいがタグっとが１０分，ＵＸのまるどりっ！が１５分。ほか３局３回放送されている。取材期間はプレスリリースのとおり，４か月前から取材，報道機関へ情報を流していたので，い

くらでも取材する時間があったというところがスターウォーズとの違いである。また，様々な団体と関わることで，メディアの切り口が非常に多様となっていて，他社がすでに放送済みでも，別の視点から取材や放送できるということが白根子の特徴だったと思う。

では，別の視点とは何なのだというところが５番のところであるが，８８年前の白根大火の復興祭的な仮装行列という地域の歴史である。一枚のこの写真がなかなかおもしろそうだというところに飛びついた部分もあるが，８８年前の歴史に各局が飛びついていただいた。それ以外にもいろいろなところで報道され映像とされたのが，イベント準備から開催まで白根高校の取り組みとして，まちあるきや商店街との商品づくり，シャッターを塗るというような商店街の景観づくりなどもやっていたので，そういうところも各テレビ局によっては，取材の内容がいろいろあったということである。専門の方にお願いして，ワークショップをやりながらお面づくりをやっていたというところについても，取材の要素があったということである。このたび，白根子行進曲については，奇妙なしろねこの仮装集団の一枚の写真から始まって，白根大火が８８年前にあり，その後の復興が行われたということ，それから，仮装行列をするにあたり，商店街の皆さん，白根高校生など，いろいろな切り口で取材をする対象がたくさんあったということで，数字に表れたものと思っている。

最後にまとめだが，一番下に書いてあるが，南区の地域資源を活用して，伝えたくなる地域としていろいろと見てもらうことで地域の価値が上がって，ひいてはまちの活性化や交流人口の拡大につながっていくのではないかと思っている。

本日の夕方のＮＨＫの新潟ニュース６１０で，再度ＮＨＫが甲信越でやったひるまえほっとの再放送される。もしかすると短くするかもしれないが，また流すという話を頂いているので，お帰りになってＮＨＫを見られるようなことがあれば，見ていただきたいと思う。

また，所ジョージさんの笑ってコラえて！という番組があり，ダーツの旅に味方地域を取材していただき，それも１月２２日の７時に放送される。そこでも時間をたっぷり取られているので，ぜひ１月２２日も注目していただければと思う。

○議長（小田会長）　続いて，建設課長より，先ほど，話が出ていた創生会議の「寄合」についてお話しいただく。

○赤塚建設課長　建設課から，「寄合」のチラシについて説明させていただく。この「寄合」は，特色ある区づくり予算の中の南区まちづくり支援事業の一環として行うものである。にいがた南区創生会議では，来年度，旧国道８号を中心とした白根中心部において，行政に依存しない民間主導によるまちの再生や活性化のため，ワークショップを開催して，担い手の育成と未来ビジョンを作成することとしている。今回の「寄合」については，その前段として，身近な地域でまちづくりの活動をしている３名の方をゲストに招いて，自身の活動や取り組むことになったきっかけ，考え方などを聞き，テーマについてグループで語り合って，来年度の未来ビジョンにつなげるとともに，実際に活動する方を発掘するためのものである。チラシの裏面をご覧いただきたい。「寄合」については，合計で３回，１２月，１月，３月の３回行う。ゲストの詳細については，ここに記載されているとおりである。この「寄合」については，創生会議のメンバーはもとより，１２月１日号の南区役所だより「みなみ風」で広く参加者を募集することとしている。皆様の周りでも，まちづくりに興味がある，実際に活動してみたいという方がいらっしゃったら，お声かけしていただきたいと思う。簡単ではあるが，説明は以上である。

○議長（小田会長）　今，事務局からの報告が終わった。委員の皆さんからあればどうぞ。ないようだ。その他はこれで終了させていただく。

５　次回全体会の日程について

○議長（小田会長）　続いて，次第第５の次回全体会の日程についてお諮りする。次の日程については，毎月，最終水曜日ということだが，４月の会議で確認していただいたとおり，１２月は１周早めて１２月１８日（水）午後２時から，今までどおり南区役所講堂で開催したいと思うがいかがか。年末で非常に多忙かと思うが，次回は１２月１８日午後２時から南区役所講堂で開催させていただく。万障差し繰りを頂きたいと思う。

６　閉会

○議長（小田会長）　提案する議案の数は少なかったが，非常に熱心な，しかも有意義なご意見をたくさん頂戴して感謝している。

以上をもって，第７回南区自治協議会を終了する。

（午後３時５５分）